

再々評価調書

事業名		寝屋川流域総合治水対策			
担当部署		都市整備部 河川室 河川整備課 都市河川グループ（連絡先 06-6944-9299）			
事業箇所		東部大阪地域 流域面積 267.6km ²			
再々評価理由		再々評価後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	地盤が低く、浸水被害が頻発する寝屋川流域において、流域住民（約280万人）の生命と財産を水害から守るため、外水氾濫に対して1/100、内水浸水に対して1/40の治水安全度を確保する。			
	内容	流域基本高水流量		2,700m ³ /s	
		外水対策	・河道改修(恩智川等) 28河川 111km	850m ³ /s	
	内容	・分水路改修(城北川等) 5箇所	390m ³ /s		
		・遊水地築造(恩智川治水緑地等) 5箇所	410m ³ /s		
	内容	・地下河川築造(南部地下河川外) 3箇所	500m ³ /s		
		・流域調節池築造 274万m ³	250m ³ /s		
	内容	・流域対策(流域市主体) 400万m ³	300m ³ /s		
事業費		全体事業費：約10,082億円(10,082億円) 投資済事業費：約5,631億円(4,742億円) うち用地費：約1,295億円(1,295億円) うち用地費：約1,256億円(1,187億円) うち工事費：約8,787億円(8,787億円) うち工事費：約4,375億円(3,555億円)			
事業費の変動要因	【事業費の変動理由】	変動なし			
	【工事費の内訳】	河道 1,262億円、分水路 746億円 遊水地 793億円、地下河川 2,913億円、流域調節池 3,073億円			
事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】毎年、下水道室や流域各市と流域協議会を開催。 【再評価時に予測した事業費変動要因の状況】 地下河川について、当初事業採択時の技術レベルでの概略設計に基づく概算事業費を全体事業費としていたが、現在、学識経験者からなる南部地下河川技術検討委員会で最新の技術・工法について検討を進めており、事業費に影響がでる可能性がある。流域調節池について、当初全体貯留量のみ定めて、単価を掛けて全体事業費としているが、関係者との協議等により順次具体的な事業箇所を定めており、その結果により事業費に変動が出る可能性がある。 【計画変更の予定】特になし				
維持管理費	約5,041百万円/年（実績等に基づく算定）				
上位計画	淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画(H14.7)、寝屋川流域水害対策計画(H18.2)、 「大阪府都市基盤整備中期計画（案）改定版」(H17.3)				
関連事業	寝屋川北部流域下水道、寝屋川南部流域下水道、大阪市公共下水道				
事業の進捗状況	経過	事前評価時点 (評価なし)	再評価時点 (H15)	再々評価時点 (H20)	分析
	事業採択年度 事業着工年度 完成予定年度	[]内：整備計画 S63 S63 -[H28]	S63 S63 H44	S63 S63[H14] H48[H28]	平成18年度に流域市とともに検討を行い「寝屋川流域水害対策計画」が完成目標を30年後として策定された。河川整備計画は段階的な目標を示す。
	進捗状況 用地 工事 流量 河道 分水路 遊水池 地下河川 調節池等 流域対策	- % - % 2,700[2,100]m ³ /s 850[850]m ³ /s 390[305]m ³ /s 410[410]m ³ /s 500[386]m ³ /s 250[148]m ³ /s 300[-]m ³ /s	92% 60% 1,630m ³ /s(60%) 760m ³ /s(89%) 329m ³ /s(84%) 295m ³ /s(72%) 128m ³ /s(26%) 46m ³ /s(18%) 72m ³ /s(24%)	97% 63% 1,710m ³ /s(63%) 775m ³ /s(91%) 329m ³ /s(84%) 317m ³ /s(77%) 156m ³ /s(31%) 57m ³ /s(23%) 76m ³ /s(25%)	
	今後の事業進捗の見通し	・流域の安全度にアンバランスが生じないよう整備順位付けを行う。 ・外水氾濫は人命に対する災害も懸念されるため優先的に整備し、H33の完成を目指す。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】 ・地下河川ポンプ施設に関しては学識経験者からなる南部地下河川技術検討委員会で最新の技術・工法について検討を進め、コスト縮減方を検討していく。			

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
		災害発生時の影響 (想定氾濫区域内)	浸水戸数：約102万戸 農地浸水面積約1700ha 重要な公共施設：国道1号・大阪中央環状線等主要道路14路線、近鉄・京阪・地下鉄等の鉄道16路線、上水施設7カ所、市役所15カ所、NTT/関電営業所29カ所、警察署・消防署33カ所等	浸水戸数：約104万戸 農地浸水面積約1170ha 重要な公共施設：国道1号・大阪中央環状線等主要道路14路線、近鉄・京阪・地下鉄等の鉄道18路線、上水施設7カ所、市役所15カ所、NTT/関電営業所29カ所、警察署・消防署33カ所等	浸水戸数が増えることにより、被害発生時の被害ポテンシャルは増大している。
		過去の災害実績	被災頻度：昭和63年以降1000戸以上の浸水被害9回 最大浸水戸数：約62,000戸 (S47.9.15,16) 農地浸水面積：約220ha (S47.9.15,16) 重要な公共施設等：国道308号、170号通行止め(H9.8.5)	被災頻度：昭和63年以降1000戸以上の浸水被害10回 前回再評価以降の1000戸を超える浸水被害： ・H20.8.6集中豪雨 ・寝屋川市、枚方市で被害 ・床上：約200戸 ・床下：約2,500戸	平成11年に延べ約8,000戸の浸水が発生するなど、今なお厳しい治水環境にある。
	災害発生時の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力の割合：60% 現況の治水安全度：40mm/hr対応	改修目標流量に対する現況流下能力の割合：63% 現況の治水安全度：40mm/hr対応	治水安全度は確実に向上している。	
	地域の協力体制	地元11市、大阪府、建設省からなる寝屋川流域協議会で治水計画や流域対策等について協議検討を進めるとともに、関連市と大阪府で大阪府都市型水害対策委員会を運営し、都市型水害対策について検討を進めている。	引き続き左記の協力体制を得ながら、寝屋川流域が「特定都市河川浸水被害対策法」に基づく「特定都市河川」の指定を受けたため、地元市と大阪府で寝屋川流域水害対策計画を平成18年2月に策定した。	水害対策にはソフト、ハードの両面から地元の協力が引き続き必要である。	
	関連事業との整合性の変化	下水道事業との整合を図りながら事業を進めている。	同左	事業採択時より変化なし	
その他	淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画の策定にあたっては、地元住民の意見を反映させた（平成14年6月策定）。	今夏の局地的な豪雨により、寝屋川市、枚方市で延べ2000戸を超える浸水被害が発生。浸水解消に向け、地元要望が高まっている。			

		事前評価時点での状況	備考	再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析
事業効果の分析	費用便益分析	<p>$C / B = 6.09$ 総費用 $C = 8,693$ 億円 年平均被害軽減額 $B = 1,428$ 億円</p> <p>$b / c = 3.44$ 年便益 $b = B - C \times 0.005 = 1,385$ 億円 年費用 $c = C \times 0.0464 = 403$ 億円</p>	<p>【算出根拠】 治水経済調査要綱(昭和61年単価)で算出</p> <p>B:各確率規模の降雨に対して旧計画と新計画の完成後の浸水被害の軽減を比して、算出する年平均被害軽減額</p> <p>C:当時の計画(旧計画)に対し、増加する費用を総事業費とした。</p> <p>これらを基に、 b:年便益(Bより維持管理費を除いたもの) c:年費用(Cに年利子や年償却費を鑑みたもの) 結果、$b / c > 1.0$であれば妥当とする。</p>	<p>$B / C = 5.77$ 便益総額 $B = 62,838$ 億円</p> <p>総費用 $C = 10,884$ 億円</p> <p>治水経済調査マニュアル(案) (平成14年単価)で算出</p>	<p>$B / C = 6.59$ 便益総額 $B = 85,018$ 億円 浸水被害軽減便益 85,018 億円</p> <p>総費用 $C = 12,893$ 億円 事業費 10,082 億円を現在価値化(11,534 億円) 維持管理費 3,935 億円を現在価値化(1,359 億円)</p> <p>治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月(平成20年単価)で算出(H19年時点で現在価値化)</p>	<p>浸水被害算定の精度向上により、便益が増大した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 解析メッシュの細分化 二次元氾濫解析による浸水深の算定 <p>基準年変更(H14 H19)により、現在価値化に伴う総便益、総費用の増加(過去の便益、事業費は現在価値化により増額となる。)</p>
	その他の指標(代替指標)					
	定性的分析	<p><安全・安心> 流域内の12市、270km²の府民(約280万人)に対する洪水等による災害の発生防止又は軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川からの氾濫防御に対して100年に1度起こる洪水規模に対応 内水による浸水対策について40年に1度起こる洪水規模に対応 <p><活力> 流域内の12市、270km²の府民(約280万人)に対する治水上脆弱な地域の治水安全度向上により土地の質的向上を図り、活力あるまちづくりを目指す。</p> <p><快適性> 流域内の12市、270km²の府民(約280万人)に対する都市を流れる河川及び遊水地を水と緑の貴重なオープンスペースやゆとり・やすらぎ空間として提供</p>	変更点特になし	<p>H16.3 寝屋川流域が洪水予報河川に指定。</p> <p>H18.1 寝屋川流域が「特定都市河川浸水被害対策法」に基づく「特定都市河川」の指定を受ける。</p>	<p>着実に治水施設の整備は推進しているが、未だ厳しい治水環境にある寝屋川流域が「特定都市河川浸水被害対策法」の指定を受けたことで、浸水被害の防止対策がより一層総合的に進められることとなった。</p> <p>平成14年6月に策定した河川整備計画に基づき、河川環境にも配慮した川づくりを進めている。</p>	
自然環境等への影響と対策			平成14年6月に策定した河川整備計画において、護岸等の改修時にはできるだけ多孔質な材料を用いるなど、生態系に配慮した構造とすることとしている。	変更点特になし。	平成9年の河川法改正を受け、可能な箇所から河川環境に配慮した川づくりを行っている。	
その他特記すべき事項				浸水想定区域図、水位情報を公表している。		
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要			<p>【意見具申】 審議の結果、事業のさらなる継続の必要性が認められ、かつ、事業推進上も特段の支障がないと考えられるため、「事業継続は妥当」と判断する。</p> <p>【府の対応方針】 『事業継続』とする。</p>	(前回評価に対する具体的な取組み) 特になし		

寝屋川流域総合治水対策事業

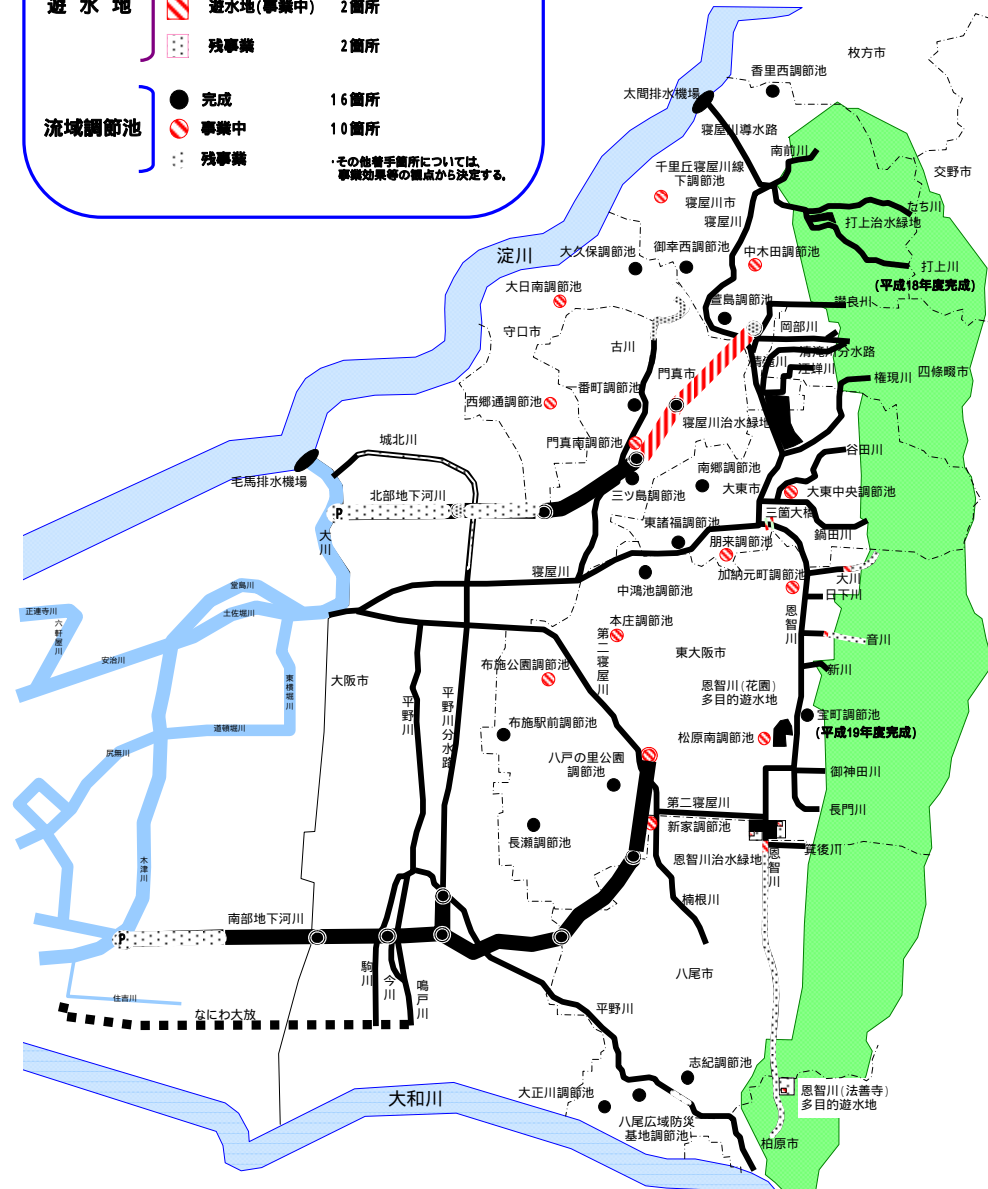
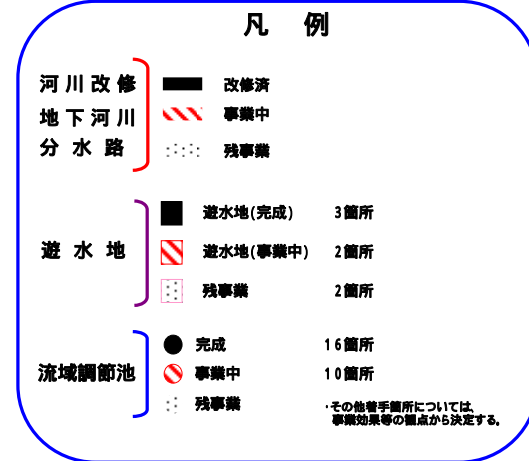
地盤が低く、水が流れにくい寝屋川流域。
街を水害から守るため、総合治水対策を行っています。

資産の集積する流域



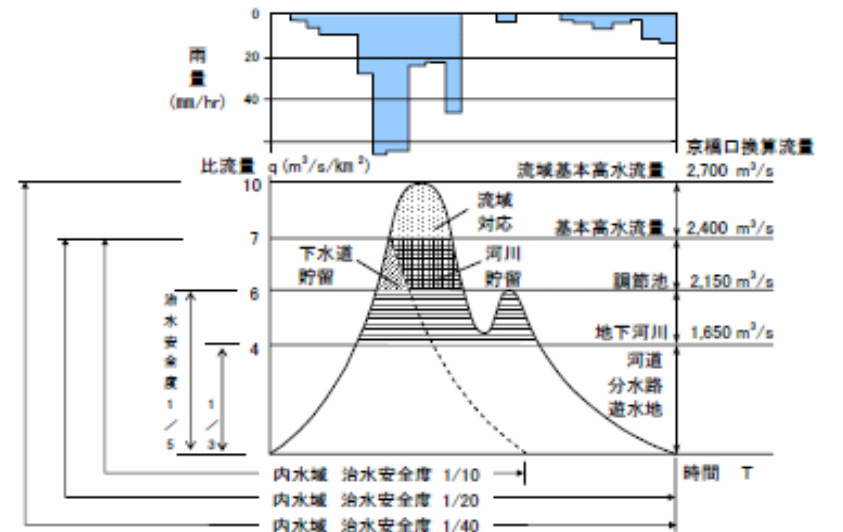
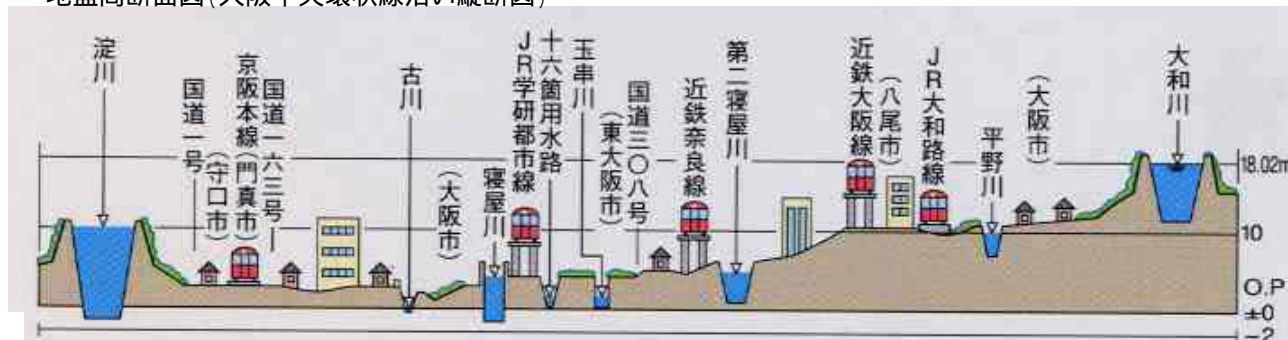
寝屋川の京橋口(大川合流点)から望む寝屋川流域

寝屋川流域図



水害の危険性を内包する都市(流域のほとんどが低地帯)

地盤高断面図(大阪中央環状線沿い縦断面図)



分水路

洪水を流域外の大河川(淀川)へ分水・放流し、下流河川の負担を軽減する新しい河川です。



寝屋川導水路

浸水被害実績



平成7年7月 東大阪市善根寺 平成9年8月 寝屋川市春日

年月日	気象要因	流域最大降雨量		浸水被害		
		時間最大(mm)	総雨量(mm)	床上(戸)	床下(戸)	計(戸)
昭和47年7月12日~13日	梅雨前線	20.0	237.5	6,138	37,273	43,411
昭和47年9月15日~16日	台風20号	47.5	115.0	8,902	52,505	61,407
昭和54年6月27日~7月2日	梅雨前線	25.0	268.5	1,044	12,043	13,087
昭和54年9月30日~10月1日	台風16号	66.0	96.0	4,045	23,691	27,736
昭和57年8月2日~3日	台風10号及び低気圧	39.5	150.5	6,778	43,262	50,040
平成元年9月2日~3日	秋雨前線	23.0	166.0	26	1,927	1,953
平成元年9月14日	秋雨前線	49.0	75.5	68	3,600	3,668
平成元年9月19日~20日	台風22号	41.0	104.0	3	1,694	1,697
平成7年7月2日~6日	梅雨前線	32.0	290.0	14	2,026	2,040
平成9年7月9日	梅雨前線	35.0	74.0	9	163	172
平成9年7月13日	梅雨前線	42.0	114.0	61	3,767	3,828
平成9年8月5日	低気圧	61.0	75.0	67	3,135	3,202
平成9年8月7日	前線	80.0	116.0	359	8,854	9,213
平成11年6月26日~27日	梅雨前線	50.0	94.0	3	398	401
平成11年6月29日~30日	梅雨前線	42.0	130.0	2	195	197
平成11年8月10日~11日	熱帯低気圧	56.0	244.0	364	3,116	3,480
平成11年9月17日	局地的豪雨	88.0	106.0	85	3,872	3,957
平成15年5月8日	前線	47.0	80.0	15	611	626
平成16年5月13日	前線	41.0	89.0	22	310	332
平成16年10月20日	台風16号	42.0	134.0	15	490	505

遊水地

洪水を計画的に一時貯留し、下流河川の負担を軽減します。普段は公園として利用できます。



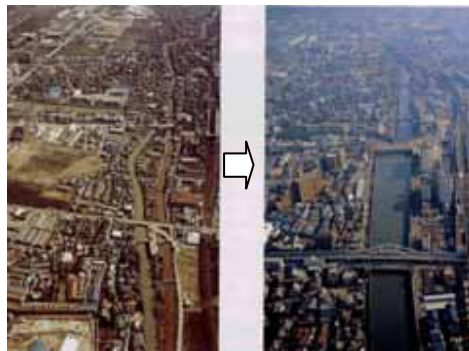
寝屋川治水緑地

治水計画と進捗状況

	全体計画	整備計画	現況治水能力(H20.3末)
流域基本高水	2,700 m ³ /s	2,100 m ³ /s	1,710 m ³ /s (63%)
治水施設	河道	850 m ³ /s	775 m ³ /s (91%)
	分水路	390 m ³ /s	329 m ³ /s (84%)
	遊水地	410 m ³ /s	317 m ³ /s (77%)
	地下河川	500 m ³ /s	156 m ³ /s (31%)
	流域調節池等	250 m ³ /s	57 m ³ /s (23%)
流域対応施設	300 m ³ /s	- m ³ /s	76 m ³ /s (25%)

河道改修

川から洪水が溢れないよう、河道の拡幅、堤防嵩上げ、河床掘り下げ、橋梁改築を行います。



住道駅前での河川改修

流域調節池

公園や駐車場などの地下に設置し、水路や下水道から溢れそうになった水を一時貯留します。



三ッ島調節池

地下河川

道路などの公共施設の地下空間を利用し、新たな放流施設である地下河川を建設しています。



寝屋川北部地下河川(古川調節池)

